



ふきのとう

春をもたらす きみどり色

ふきのとうは

春の使い

ふしみ しょうがっこう 5ねん たかく かずなり

○「熱烈 歓迎！」

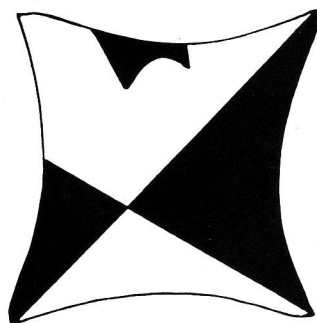
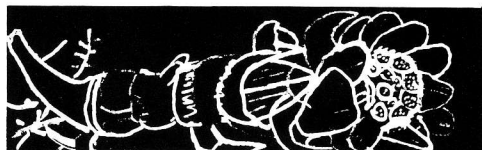
苫小牧大会

○手紙を使った意欲づけ

○指導の構築第4集編集にあたって

○実技「トンビ」

○全国大会みてある記



北海道造形教育

北海道造形教育連盟

事務局 〒062 札幌市豊平区西岡5の18

札幌市立南月寒小学校 ☎853-9314

No. 61 1980. 4. 26 発行



熱烈 歓迎!

第30回全道造形教育大会 苫小牧大会

事務局長 片 桐 勉

80年代の幕あけの年……。教育課程の改訂、指導要領の改定など……。教育を見直す 重要な段階にきている今日……。

このような意義深い 80年代のスタートの年に 第30回北海道造形教育大会を 苫小牧市で開催できることは、大変喜ばしいことですし、北海道の造形教育の歴史に ひとつの「節」をつけるということで 誠に 価値あるものと思います。

そこで 私たち苫小牧の仲間、賑々と各地で追求してきた造形教育の実践研究や 18回大会の経験を生かし、思考錯誤を重ねつつも 一步一步と 新しい時代の造形教育に近づくべく、理論研究と それの裏づけになる 日常実践の活動を深めております。

「ひろがり」と深まりのある造形教育を求めて」が今回の大会のテーマであります。

「ひろがり」とは 子ども達ひとりひとりが日常の 図工美術の学習で学んだものを ダイナミックに展開していく 主体的活動であります。それには 過去の

フェスティバル（運動会のパレード・七夕パレード・お祭りパレード・カースバルなど）や、発泡スチロールのいかだ流しなどの実践があります。又 本年の「第35回スケート国体」もあります。市内の各小中学校が メーン会場の道路に300本のまといを飾り、学年相応に それぞれダンボール、発泡スチロール、ベニヤ板を材料を使って 色とりどりの楽しい作品をつくりあげました。さらに 開会式には、各小学校が分担参加し 43県の県旗をつくり 選手団が入場するたびに、黄色い声で旗を振っての歓迎。入場前には、小学生歓迎ワッペンを手渡すといった形で、参加が単なる形式ではなく“造形演出”が子どもたち自らの手によってなされた訳です。「ひろがり」の事例で作品を発表します。

私たちは、学校行事・児童会・生徒会行事と地域の行事などをふまえて、1年間のカリキュラムを どのように組み立てるかが重要な鍵になると考えています。

この夏の全道大会で、小学校では 子どもたちひとりひとりが のびのびと活動する造形あそびの低学年。中学年では、一時間の授業の中で 子どもたちが教材とどのように取り組み、そして ひとりひとりの子どもを 教師は参加させるか。4・5・6年ではクラブの公開を計画しております。これを「ひろがり」の研究グループAブロックとし 若草小を会場に 合計三つの授業公開をします。

「深まり」とは、子どもたちが 生き生きと造形活動を展開していくための基盤としての能力・技能や発見する力を身につけさせる教師の仕事のことと考えています。

30回全国造形教育研究大会札幌大会の研究主題でもふれていますが、近年のあまりにもはげしい科学技術の進歩により、ややもすると造形教育も 他の教科のように“教える”ことが強調されていなかったのか、の反省に立たなくてはなりません。公開授業では、数多くある教えるべき事項をきちんと精選し、それらの中の 何を育てるべきなのか を教師は見通しをもって授業を構築したいと考え



ております。一方子どもたちには、ひとつの学習課題をステップとして“ゆとり”を持った造形活動が 楽しくできるような授業の保障を 教師がしていかなければならない という確認に立って研究を進めるのが Bブロックです。このブロックには、三つの授業公開をします。

以上が 小学校における「ひろがり」と深まり」を考慮にいたした授業の構成のあらましですが、晴れの時には グランドを使ったユニークな内容も予定しております。

幼稚園・中学校・高校は、研究主題の「ひろがり」と深まりのある造形教育を求めて」を基盤として 幼稚園は絵画、製作の二つ。中学校は デザイン・工芸を主体にした三つの授業公開があります。

高校は 版画についての 分科会のみを設定しております。

大会運営に関しましては、できるだけ苦小牧近辺の先生方のバックアップを進めていきたいと考え、胆振造形教育研究会が この4月から発足しますのを機会に、この会に 提言・司会などの大半を お願いする予定でおります。

さらには、開閉会式に造形演出の立場から 子どもも参加するものを考慮しております。

オリエンテーションにも一工夫したいと思っております。主催者側の一方的な進め方ではなく、30回大会に至るまでの経緯を 幾人かの方々にのべていただき 参会者の方が本大会の授業公開・分科会にスムーズにはいられ 討議していただけるような形にしたいと計画しております。

私たちは、全道各地からの先生方をお迎えするために、3月末には 虎杖浜で合宿研究をおこない、全道大会の構想を ひとりひとりのものにしようと 張り切っております。

7月27・28日の大会には、ぜひ苦小牧へおこしてください。若草小学校で心よりお待ちしております。そして 今後の展望に立って大いに“はっちゃき教育論” “がき大将教師論” など やろうではありませんか。



手紙を使った意欲づけ

外国でことばを使わずに手ぶり身ぶりで
授業なさった伊藤先生の、手紙で呼びか
けたユニークな意欲づけ……。

札幌・東山小学校

伊 藤 恵

6年生の皆さん。

いつも元気そうで何よりです。君たちは、東山小学校の最上級生として、この学校の全体の仕事を分担していますが、その努力は本当に立派です。どうか がんばってください。

さて、こんど皆さんと 画用紙で「顔」をつくろうと思います。6年1組は、この12日。6年2組は13日。6年3組は14日ですので、それまで この手紙を読んでもおいてください。

1. つくるものは「顔」です

顔といっても、自分ではありません。紙は、粘土のように自由には なりませんので、そっくりということはないのです。でも感じは出せます。悲しみうちひしがれた顔とか、明るい希望にみちた顔とか、いたずらっぽい顔とか、一見紳士風だが根は悪人とか、まあいろいろあるでしょう。そのような顔なんです。自分でつくりたい顔のことを 形は別として、その顔の人の気持ちとか、態度とか、そのようなものを まず想像してみてください。

さて、そのようにして心の中がきまると、こんどはだいたいの顔の形が目にかぶでしょう。それは細い顔とか、丸顔とか、角顔とか、また目は ドングリ目で飛び出しているとか、おく目とか、大きい口とか、おちょぼ口とか いろいろですね。その時になって 君たちの中には「僕は四角い箱の作り方しか知らないから四角顔にしよう。そして 四角い顔に合う心の持主をつくってやれ」と考える人がいるかもしれませんが、それは困ります。

大まかな顔のつくり方は、その日、皆さんと一しょに学習しますから、あまり心配しないでください。

わたしは、君達が想像してくる人物をすごく楽しみにしています。いじわるいようですが、あまり友達と相談しないで 自分自身で考えてみてください。

ております。一方子どもたちには、ひとつの学習課題をステップとして“ゆとり”を持った造形活動が 楽しくできるような授業の保障を 教師がしていかなければならない という確認に立って研究を進めるのが Bブロックです。このブロックには、三つの授業公開をします。

以上が 小学校における「ひろがり」と深まり」を考慮にいたした授業の構成のあらましですが、晴れの時には グランドを使ったユニークな内容も予定しております。

幼稚園・中学校・高校は、研究主題の「ひろがり」と深まりのある造形教育を求めて」を基盤として 幼稚園は絵画、製作の二つ。中学校は デザイン・工芸を主体にした三つの授業公開があります。

高校は 版画についての 分科会のみを設定しております。

大会運営に関しましては、できるだけ苫小牧近辺の先生方のバックアップを進めていきたいと考え、胆振造形教育研究会が この4月から発足しますのを機会に、この会に 提言・司会などの大半を お願いする予定でおります。

さらには、開閉会式に造形演出の立場から 子どもも参加するものを考慮しております。

オリエンテーションにも一工夫したいと思っております。主催者側の一方的な進め方ではなく、30回大会に至るまでの経緯を 幾人かの方々にのべていただき 参会者の方が本大会の授業公開・分科会にスムーズにはいられ 討議していただけるような形にしたいと計画しております。

私たちは、全道各地からの先生方をお迎えするために、3月末には 虎杖浜で合宿研究をおこない、全道大会の構想を ひとりひとりのものにしようと 張り切っております。

7月27・28日の大会には、ぜひ苫小牧へおこしてください。若草小学校で心よりお待ちしております。そして 今後の展望に立って大いに“はっちゃき教育論” “がき大将教師論” など やろうではありませんか。



手紙を使った意欲づけ

外国でことばを使わずに手ぶり身ぶりで
授業なさった伊藤先生の、手紙で呼びか
けたユニークな意欲づけ……………。

札幌・東山小学校

伊 藤 恵

6年生の皆さん。

いつも元気そうで何よりです。君たちは、東山小学校の最上級生として、この学校の全体の仕事を分担していますが、その努力は本当に立派です。どうか がんばってください。

さて、こんど皆さんと 画用紙で「顔」をつくらうと思います。6年1組は、この12日。6年2組は13日。6年3組は14日ですので、それまで この手紙を読んでも読んでください。

1. つくるものは「顔」です

顔といっても、自分ではありません。紙は、粘土のように自由には なりませんので、そっくりということはないのです。でも感じは出せます。悲しみうちひしがれた顔とか、明るい希望にみちた顔とか、いたずらっぽい顔とか、一見紳士風だが根は悪人とか、まあいろいろあるでしょう。そのような顔なんです。自分でつくりたい顔のことを 形は別として、その顔の人の気持ちとか、態度とか、そのようなものを まず想像してみてください。

さて、そのようにして心の中がきまると、こんどはだいたいの顔の形が目にかぶでしょう。それは細い顔とか、丸顔とか、角顔とか、また目は ドングリ目で飛び出しているとか、おく目とか、大きい口とか、おちょぼ口とか いろいろですね。その時になって 君たちの中には「僕は四角い箱の作り方しか知らないから四角顔にしよう。そして 四角い顔に合う心の持主をつくってやれ」と考える人がいるかもしれませんが、それは困ります。

大まかな顔のつくり方は、その日、皆さんと一しょに学習しますから、あまり心配しないでください。

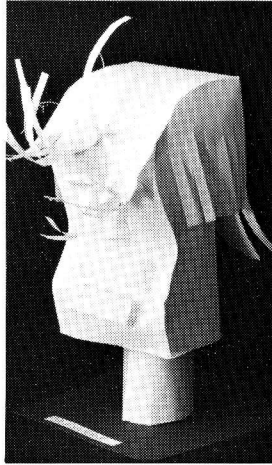
わたしは、君達が想像してくる人物をすごく楽しみにしています。いじわるいようですが、あまり友達と相談しないで 自分自身で考えてみてください。

指導の構築 第4集編集にあたって

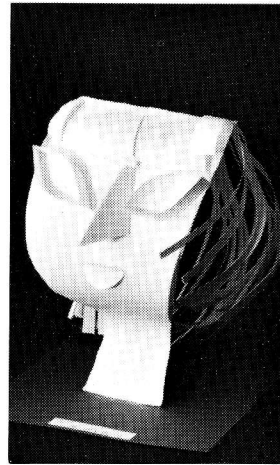
—— 連盟研究部次長 長津喜代



南 奈緒見



安部 充



渡辺 聡子

2. 用意も簡単です

材料：色画用紙 2枚、白い画用紙 4枚、更紙（印刷のちらしでもいい）2枚、ゴム系接着剤（セメダイン造形工作用・セメダインコンタクト・ボンドG17 など どれでもいい） 小さなチューブ 2本。

用具：はさみ・画板。ほかにあれば助かるもの：定規（小さい方がいい） カッター、鉛筆は 殆どつきません。

3. つくり方は 簡単です

いま、画用紙で 四角柱をつくとします。「はい、用意はじめ」といつてからストップウォッチで時間をみます。いちばん遅い子どもでも2分間でおわりです。今まで「わたしは不器用」と自分できめていた人でも「2分」なのです。ちょっとことわっておきますが、自分で頭がいいと自信のある人よりは、自信のない人が、どういうわけかうまくいくのです。

おまけに、失敗したなどと思ったら すぐやりなおせばいいのです。かつこうは良くなくて、つぎはぎだらけでも一向にかまいません。

本当に大切なのは、つくられる形、つまり「顔」です。君たちが考えておいた心の感じが、あらわれるかどうかです。

もし質問があったら いつでも来てください。居ない時なら、手紙で結構です。すこし長すぎましたが わたしは、その日の来るのを楽しみにまっています。

「十年ひと昔」とよく言われますが、造形連盟は今年30周年を迎えました。研究も地につき、その成果が各地の実践で見られるように結実の効を奏でております現在、連盟の基礎づくりをして下さった方々の労苦と熱情に深くお礼を申しあげずにはられません。

昭和38年来研究して来られた、学習内容系統表・学習能力体系表・造形学習能力表とその実践は、指導の構築として過去第三集まで刊行されておりますが、この度 連盟発足30年を記念して、その研究を見直し、指導の構築第4集を刊行することになりましたので、ここに改訂の要旨を述べさせていただきます。

1. 子ども像の見直し

科学振興による文化の発達から、子どもたちの生活は「ふた昔」頃と比べるとどこかが変わってきているに違いない。このような仮説にたって学習内容系統表の「発達段階」に視点をおき、見直してみることにいたしました。

(7). 子どもの生活圏

はじめに、子どもの生活の事象面を今受け持っている子どもを見直すことから 実態として探り出しました。これは、幼稚園・小学校を中心として調べたのですが、その範囲は、

○ 自他の関係 ○ 興味 ○ 行動（範囲・遊び） ○ 環境（●科学の発達から ●世間の情報化から ●家庭生活から見られるもの）を主としてとらえ、その内容は、

A 興味・関心 B 自他の関係・行動 C 思考 D 感覚

E 表現 として、現代っ子の特に変化してきている一般的な様子と、以前から変らない面を整理してみたのです。

(4). 子どものすがた

次に上記アのおさえから、「発達段階」の項を検討してみました。旧来のものには付け加えるものとして、

- 視覚的・聴覚的発達をめざましいこと
- 男児・女児の意識がはっきりしてきていること

をとりあげました。また「発達段階」という表示は、一般心理学の発達段階と違い、造形に関わる心理的な表われだけをとりあげているので、「子どものすがた」と表示することにしました。

(ウ). 造形の要求度

更に (イ)の「子どものすがた」と旧来の系統表の「造形の要求度」の関わりを見直し、この心理的な表われに対応して こう指導したいということを書いてみました。

以上のような立場から、造形面にかかわりのある現代っ子の特徴を洗って見ましたが、基本的な発達段階は変えることなく、連盟の積み上げた研究は深く、遠大な見通しを立てて構築されております。

2. 指導構築のための視点

この項は 第3集に述べられておりますが そのまま生きて基本となっているものであります。

(ア). 目標視点

- ◎ 主体性をもった創造的人間像をめざす。
 - (1) 生命力の充実、生理的・心理的な開放を図り、表現の喜びを与える。
 - (2) 生活を通して自己や社会の認識を深め、能動的・積極的な精神を養う。
 - (3) たしかな技術をもって生活を開拓する。

(イ). 内容視点

- ◎ 精神開放を図るもの
 - (1) 表出を満足させるもの
 - (2) リトミック的なもの
 - (3) 身体的成熟をうながすもの
- ◎ 基礎造形的なもの
 - (1) 形体・色彩の感覚練習
 - (2) 素材に対する基本的な理解
 - (3) 機能・構造に対する基本的な理解
 - (4) 正しい道具への理解と処理の力

◎ 空間・自然認識的なもの

- (1) 直感的・印象的にとらえるもの
- (2) 対象を分析的にとらえるもの
- (3) 事物の認識をふかめるもの
- (4) 生活的・社会的な認識を深めるもの

◎ 独創力の開発を図るもの

- (1) 自由な連続的発想をねらうもの
- (2) 可逆的思考を養うもの
- (3) 系統的に発想を高めるもの
- (4) 機能・構造の可能性を追求するもの

3. 幼小中高校学習内容の系統表

子ども像の見直しによって「心理的な表われ」「造形の要求度」に改訂文をとり入れましたが、今回は、幼稚園の項も加え、下段のような項目に分けて系統を追って述べ、大版一覧表にいたしました。

- 子どものすがた
- 造形の要求度
- 造形的なあそび
- 心象表現 (ねらい・絵画—内部・観察—・版画・彫塑)
- 適応表現 (ねらい・内容・色と形・製作)
- 鑑賞 (作品・日用品・美術品・自然)

4. 幼小中造形学習能力表

表(P9~P11)をつくるにあたって「子ども像」はもとより 昭和55年度実施の小学校図画工作科教科課程の立場を基底にして、指導現場ですぐ使えるものを作るように心がけました。

5. 実践記録

指導の構築には、若手活動家による指導実践例がのっております。幼・小・中高校と、学習能力表をふまえ、独自のユニークな発想によって指導された実践例であります。

造形学習能力表 《幼3才》

子どもがのた	○自我がめばえてくる。 ○他を意識しはじめる。					
造形要求の度	○表現意欲はさかんであるが、移り気で持続時間は短い。 ○遊びの中で自由に記号的表現をする。 ○導人のしかたによって、集中して描くようになる。 ○エネルギーな表出。					
領域教材	ねらい	内容	学習の要素	材料・用具と技法	能力	
造形的なあそび	○思いのままに描いたり作ったりする。	○全身を使って、水あそびやどろんこあそびをする。 ○粘土と体ごとたわむれる。	○いろいろな自然物を使ってあそぼせる。	○水・泥・粘土など自然物に親しむ。	○材料に親しむことができる。	
絵	お話・想像	○心のひかれたことをかく。	○興味のある具体物を取りあげる。	○思いのままにかかせる。	○クレヨン・パス・水彩えのぐ・フェルトペン、いろいろな大きさの画用紙・色画用紙・新聞紙・包装紙等身の材料や用具に触れ、使うことの喜びを知る	○自分がわかる絵を自由にかくことができる
	くらし・観察	○みたり聞いたりしたことを楽しんでかく。	○好きなようにかく。	○単純な表現をさせる		○楽しんでかくことができる。
画	版画	○うつつしてあそぶ ○型おししてあそぶ	○体を動かして、うつつしてあそぶ	○うつつしてあそびながら楽しませる。	○野菜・自然物等形のはっきりしたもの。 ○紙類	○単純な形をうつつしてあそぶ。
	粘土	○指やてのひらを使って作る。	○まるめたり、ちぎったり、のばしたりしてつくる。	○形が変化することを楽しませる。	○粘土 ○粘土板・手拭き ○のばす・まるめる・ちぎる・くつつける等ができる。	○粘土に親しむことができる。
製作	かざる	○楽しんで作る。	○思いのままにつくる ○できたものを自分でかざる。	○折る・ちぎる・はるぬる等をさせる。 ○使いたい色を自分でえらばせる。	○紙類（画用紙・折り紙・色画用紙等） ○木片・パス・フェルトペン・のり・はさみ・ブロック	○色の識別ができる
	使う・動く	○つくる過程を楽しむ	○ちぎったり・折ったり、という簡単な範囲でつくる。(円をちぎってひらひらおとす。折った紙をフーフー吹く事)	○つくったものであそぼせる。 ○何でもおもちゃになることの体験をさせる	○折る・ちぎる・はるぬること等ができる	○つくったものであそぶことができる。
	組み立てる	○単純なものを組み立ててあそぶ	○つみ木等を高くつむ形をつくる。 ○同じ形をつなぐ	○組み立ててあそぼせる。		○単純な組み立てができる。
鑑賞	○自然に親しむ	○自然物（きれいな石・花・体につく葉・つめたい砂等）	○自然の中であそぼせる。	○自然物（石ころ・花草・葉・水・砂等）	○自然物を使ってあそぶことができる。	

造形学習能力表 《1年》

子どものすがた	○むら気でもまとまりはないが、全身に興味・関心を示す。 ○自分と他との関係を意識しながらも自己中心的である。 ○視覚・聴覚的な運動を好む。									
造形の要求度	○あそびの中から衝動的に表現する。 ○主客未分の状態 ○ラ列的表現 ○全身に訴える									
領域・教材	ねらい	題材の視点	学習の要素	材料・用具と技法	能力					
造形的なあそび	○材料から、つくりたいものをおもいうかべ、楽しく造形活動をする。	○見たり感じたりすることが楽しくできるもの ○つくりながら遊べるもの ○全身で表現することができるもの ○型押しあそびのできるもの	○材料からの自由な発想・連想をさせる ○構成的な活動（積む・並べる・組み合わせる）をさせる ○全身を使って、自由に遊ばせる。	○自然物（土・砂・葉貝等）や人工物（紙・箱・廃材等）などの材料体験を豊かにする	○材料の色や形からつくるものをおもいつくことができる					
	心構	絵	象	想	し	○主人公になりきって楽しく空想させ絵をかく喜びと自信をつける。	○好きな動物や虫の生活を自分のくらしとくらべてかく。物語の中から自由に発想できるものをかく。土や木の中の話町をたべたくじらなど	○大小や多少の表現に気付かせる。 ○ベースラインに気付かせる。	○クレヨン・パス・コンテ・色鉛筆・サインペンなどを使う	○情景を思い出しながらその内容を大きく、のびのびと表現することができる
○興味のあるものを大きく、のびのびとかくようにする。						○お話をするように自分の楽しい体験をかく。 (おみせやさん・動物園のきりんなど)	○かきたいものをはっきりさせる。 ○体全体を動かすようにかかせながら線の長さや強さに気づかせる。	○持ち方や使い方がわかる。	○かきたいことを画面一杯にそのものずばりかくことができる。	
表	画	現	察	物	○自然物・風景・建物・静物	○興味のあるところを大きくかくようにする。	○かきたいものの感じをはっきりつかんでかく。 (にわとり・ごりがに・虫・牛ごやと牛など)	○線描を主体にかきたいものを画面いっぱいにかかせる。 ○興味のある部分をくわしくかかせる。	○色々な線を引いたり、色の使い方などに慣れる。 ○力の入れ方を工夫する。 ○各種画用紙を使う	○自分の感じたことを自由にかくことができる。
					○腕と胴の関係に気づかせ全体を大まかに表現する。	○正面から体全体の様子をかく。(十字形表現から解放) (ボールを持った人手を頭にあげた人など)	○手足の曲り方をわからせる。(ストロークを大切にさせるプロポーションは図式表現にまかせ)	○全体のバランスより腕と胴の関係がわかりゆっくりと続いた線で大きく表現することができる。		

領域	教材	ねらい	題材の視点	学習の要素	材料用具と技法	能力
心象表現	彫塑	○主題をもって構想を練り対象を立体としてとらえ、計画的に仕事を進める。	○材質を生かした立体的特徴のよきつかめるものから ○うごきのあるものから ・塊材で顔・昆虫・魚 ・粘土で動物・友だち	○つり合い、プロポーション、静と動を考 えさせる ・材質の理解と生かし方を考えさせる	○粘土・木・石・セメント・レンガ・けいそう土 軽石・白影石 ・粘土ペラ・粘土板・タガネ・くぎ・彫刻刀・ナイフのこぎり・木づち ○芯材の工夫・粘土によるクロッキー	○材質を生かしながらモデリング、カービングで立体(彫塑)的表現ができる。
適	ざ	○飾る目的や用途によって、色と形の感じを効果的に生かす。	○自分や、学校生活に使うものをかざる。 ・学級に置くもの ・あそぶもの ・各工作物のデザイン	○ひとつの形、組み合わせた形、並べた形の方向動きつり合いの感じを補えさせる。明暗強弱、鮮かさの感じを生かしてつくらせる。	○製作物に合わせた材料・用具・彩色具	○明暗・中間の感じを色の対比でとらえることができる。 ○目的を考えた形や、方向・運動 ○つりあいを考えた配列ができる。
		○皆の願いや訴えがみんなにわかるように色や形を目立たせて、表現する。	○自分・学年・学校で伝えたい事柄を絵と文字の組み合わせの工夫によって表す。 ・カレンダー・おもちゃ・標識・視聴覚機器利用	○色と形の感情と機能 ・目的に合わせて作る ・形から受ける感じを生かす ・色の感じを生かす	○モニタージュ ○接着の技術 ○面材・彩色具 ○視聴覚機器 (・8ミリ・VTR ・OHP)	○知らせる目的に合わせて色や形、材質を考えてデザインできる。
応	せ	○使う目的や美しさを考えてつくる。 ○見通しを立ててつくる。 ○図をかき試作してつくる。	○遊ぶものを作る ・ゲームに使うもの ○学習や生活に役立つものを作る。 ・たな・入れ物・楽器・紙しばい	○作りたい物の計画図をかかせる。 ○丈夫な組み立てを工夫させる。 ○美しく仕上げさせる	○糸のこ・ダンボール ・発泡スチロールのこぎり・きり・金づち ・ペンチ・針金・やすり・小刀・板材・焼成用粘土 ※手入れ、安全、保管	○前や横から見た図をかく。 ○材料の性質を生かす ○補強する・焼成する ○構造を安定させる。 ○色と形の感じを用と美に生かす。
表・構造	動	○カムやクラークの仕組みを利用して動くものをつくる。丈夫な作り、変化のある動きを生かして作る。アイデア図・試作をする。	○おもしろい動きのする果物や動物をつくる ○走るほかに何か動きを考える。 ○クラーク、ゴム動力を利用して作る。	○カム、クラークのまわす車の工夫をさせる ○二次伝導も工夫させる。 ○丈夫な組み立てをさせる。	○糸のこ・針金・ペンチ・くぎ抜き ・針金を直角に曲げる ・切り方 ※手入れと安全・保管	○計画的に仕事を進め手ぎわよくできる。 ○力の伝わり方が正確にできる。 ○色や形が楽しい。 ○図を生かして仕事ができる。
鑑賞		○作品・日用品・美術品の美しさや良さを味わうことができる。 ○表現を通して自然の美しさを味わうことができる。	○表現上の課題に基づいて ・製作の前 ・過程中 ○校内展示会	○良い作品を鑑賞する機会を多くもち、美に対する感覚を高めさせる。 ○児童自身の尺度で見作品になじみ親しくさせる。	○自分や友人の作品 ○表現に関連した造形品や美術品 ○自然美	○友人の作品をよく見て表現意図を理解することができる ・参考品の美しさや良さを表現と関連づけて見ることが出来る ・自然美を感得することができる

トンビ

風にゆられてとぶ

札幌市南月寒小学校

3年・2こま

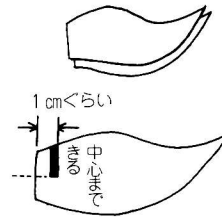
富田 泰

回転モビールと同じように、風によって とんびがくると回り はねを動かして飛んでいるように見えます。窓ぎわの風にあたる所、のき下などにぶらさげてみましょう。

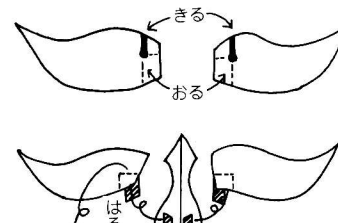
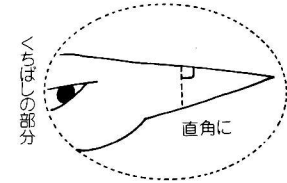
材料用具：画用紙・たこ糸・油ねん土・アルミホイル・マッチ棒・はさみ・カッターナイフ・接着剤・色サインペン



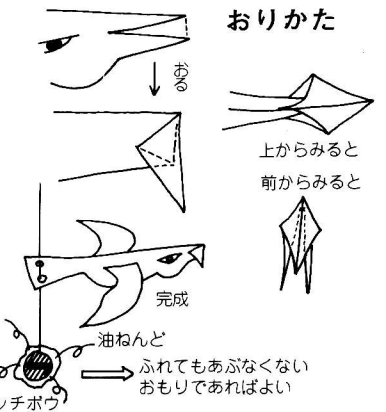
ハツ切り画用紙を二つ折りにする



- ・二つ折りにした画用紙を図のように、とんびのからだとはねの部分をつけて図を書く
- ・くちばし・頭・からだ・はねの部分の大きさをよく考えて書く(バランスよく)
- ・形のよいとんびをつくるには、何度も試作するとよい



おっただけはねが下がらないようにささえる



全国造形教育大会みてある記

教育大附属札幌小学校 伊藤暢紀



6年「絵で表す」授業風景

仙台のケヤキ並木に似た“新鮮な精神の泉”を子どもの内に湛えようと、造形活動を通して豊かな人間性と創造力を培いつつ 東北の造形人が全国に呼びかけて、この全国大会をつくりあげたその意気込みが、随所に感じとれたものでした。

この仙台大会は、この“新鮮な精神の泉”をひとつは 地域性に今ひとつは 教師が子どもの豊かな創造活動の援助として

- 子どもたちが表現の喜びが持てるように
- 子どもたちが基礎的基本的な内容を体得し、確かな造形活動ができるように

○子どもたちが、個性と能力を持って人間性の回復をはかれるようにと願ったものでした。

授業は新教育課程が来年スタートすることもあって、1年では造形あそび「かげとあそぼう」 2年では、合科的指導「お店やさん」と進取的な題材構成で、その他に10題材の授業が公開されました。

造形あそびでは、子どもたちの内的な造形性が遊びを通して 何ものにも規制されることなく 伸び伸びと表現される。このことから、子どもたちに遊びの中に新しい発見をさせ、楽しく工夫させながら より大きな造形の喜びを味わわせることをねらいとした、光と影を使った、シルエットになった物の形のおもしろさと、光を通

した色彩の美しさを体験させようと授業が構成されていた。ひとつのグループがオーバーヘッド三台の光源と、教室用白地のカーテンを三枚程も縫い合わせた大きなスクリーンの間に入り、誰であるかのあてっこをしたり、グループの集合のシルエットを見て、見慣れているはずの影から新たな発見をしたり、形からさらに色ではどんな発見が起こるのであろうと、子どもたちが発想し、色セロファンを持ち出すといった子ども自らの活動が次から次と展開された。

合科的指導の「おみせやさんごっこ」では、看板や店の飾り、値札、広告、ちらしなどをグループ毎に考え、つくり、飾りつけて、はたして多くのお客さんにたくさん買ってもらえるのかを考えながら楽しく作業を進めていた。

写真は、6年生の絵で表す「演奏する友達」の授業風景ですが、日頃親しんでいる友を「楽器を演奏する友達」として描く中で、概念的説明的にならない生き生きとした躍動感のある絵に仕上げようと、クロッキーの積み重ねの上で、対象をよくとらえ、内面的なものの表現にせまろうと、ひとりひとり彩色計画を立て意図的に彩色をしていて、子どもたちの納得のいった顔、顔、顔が印象的でした。

あとがき

- 新指導要領の実施、昭和80年台のスタートと話題の多い年になりました。機関紙も61号になり内容構成を多少変えてみましたが、いかがでしょうか。
- “指導の構築第4集”は苫小牧の大会で、その全容をご披露いたします。ご期待ください。
- 次号は“指導の構築”についての感想、新指導要領の実施の状況などを中心にしたいと考えています。
- 広報部から原稿依頼の手紙が飛びます。心よいご協力をおねがいします。

(フシミ小 タニ)